

英語教育における古河市が目指す児童生徒の姿

- ・積極的に人と関わり、英語でコミュニケーションを図ろうとする児童生徒
- ・国籍を問わず、互いの違いを認め合い、誰に対しても思いやりをもって接する児童生徒
- ・日本や古河の良さについて、自分の言葉で伝えようとする児童生徒

いつでも英語に触れられる環境を整え、小中9年間の学びの連続性を意識した英語教育を実施

全小中学校にALT配置

古河市の英語教育

本市では平成29年度から、文部科学大臣に申請し、教育特例校の認可を受けています。それにより小学1年生から英語活動を行っています。



イングリッシュ・キャンプ

デイキャンプ
小学3～6年生が対象
1泊2日のキャンプ
中学1～2年生が対象

英語検定料の半額補助を実施

小学5～6年生が対象
中学1～3年生が対象

英語検定料を半額補助



様々な体験や活動を通じて、英語に慣れ親しみ、人とコミュニケーションする楽しさを感じる。

英語による聞くこと、話すことの活動を通して、英語で、コミュニケーションを図る素地を養う。

英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、コミュニケーションを図る基礎を育成する。

簡単な情報や考えを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質、能力を育成する。

低学年

中学年

高学年

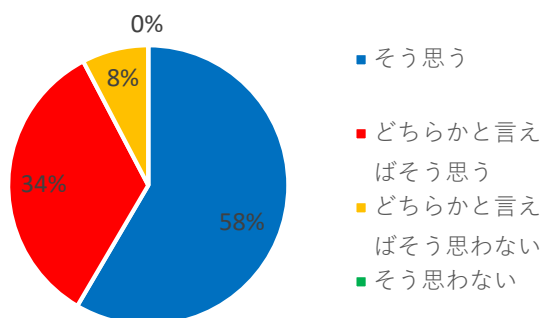
中学生



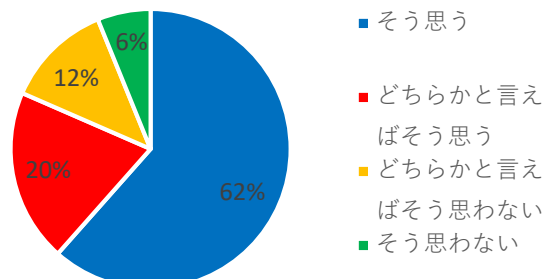
古河市教育委員会

令和3年度 英語活動に関する調査（1・2年生児童）【名崎小学校】

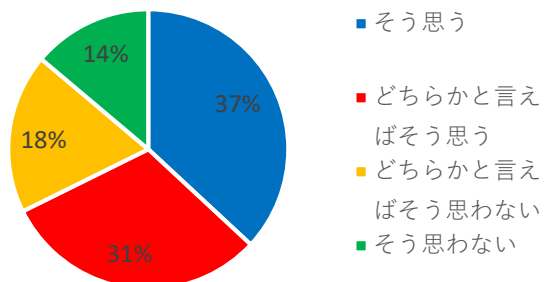
英語の勉強は、好きですか。



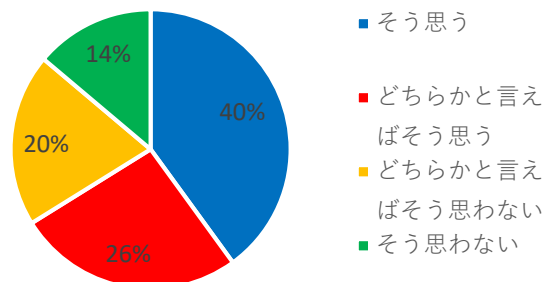
外国人の先生との勉強は、楽しいですか。



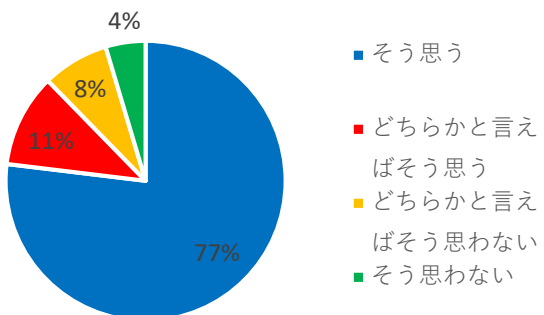
英語を進んで使うようになりましたか。



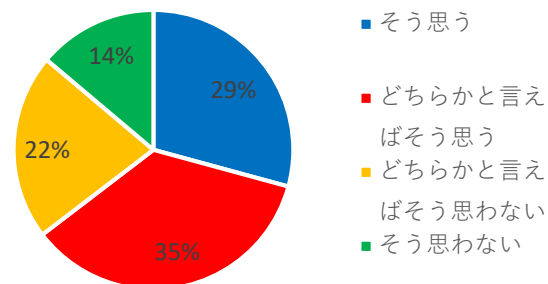
英語であいさつしたり、簡単な質問をしたり、答えたりすることができますか。



英語を話せるようになりたいですか。

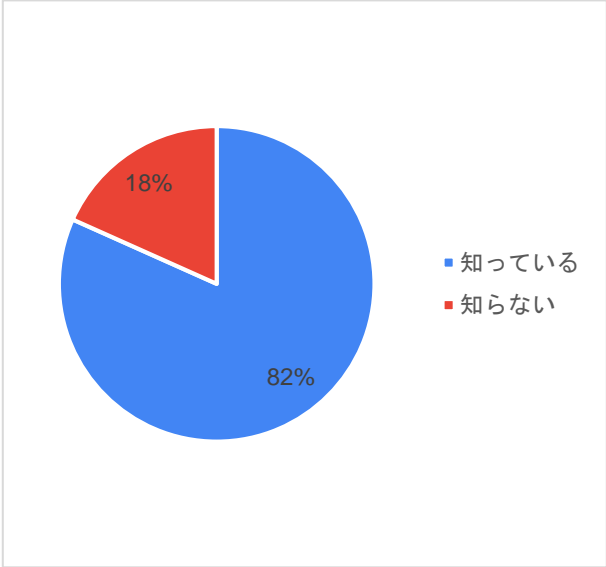


英語の勉強をして、外国について知ることができましたか。

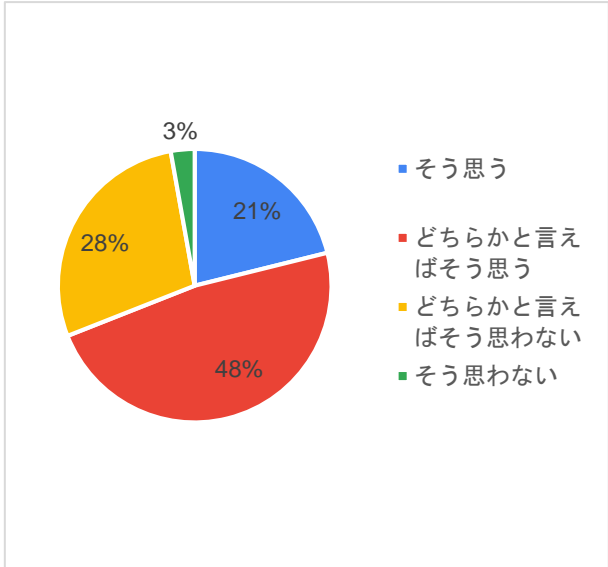


令和3年度 英語活動に関する調査（1・2年生保護者）【名崎小学校】

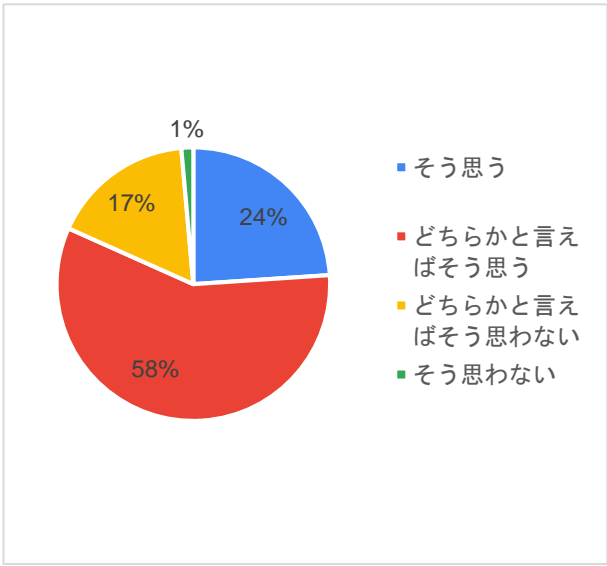
お子様が、学校で英語活動に取り組んでいることをご存じですか。



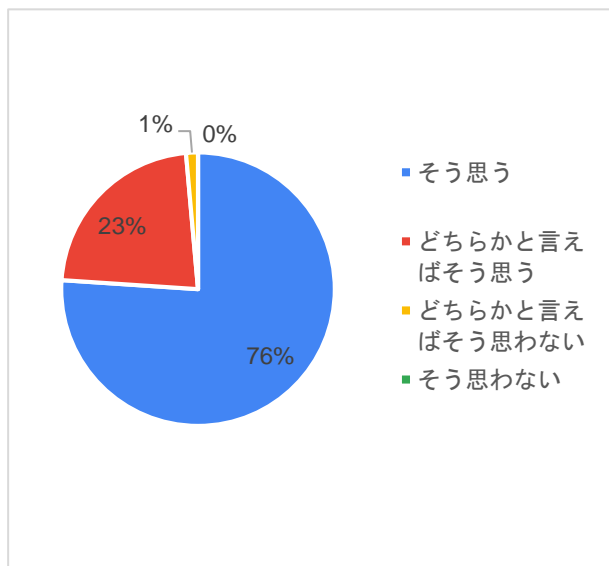
お子様は、英語に対して興味・関心が高まりましたか。



お子様に、英語に関する検定や資格を受けさせたいと思いますか。



今後も、市による英語（外国語）の取組を続けてほしいと思いますか。



令和3年度 英語活動に関する調査（学校関係者より）

- ・ALTと授業者のコンビネーションが良く、連携がとれており、活動を中心とした授業だった。
- ・児童が楽しそうに英語の授業に取り組んでおり、たくさんの英語を活用していた。

古河市小学校教育課程特例校（英語）教育課程編成の方針

1 特別の教育課程の概要

小学1年生から英語活動を導入し、英語に触れさせ、慣れ親しませ、人との豊かなコミュニケーション能力を高めるための素地を養う。

特別な教育課程を編成し、外国語指導助手（ALT）を活用しながらコミュニケーションを基盤にした英語活動を実施することで、児童の英語に対する興味・関心を高め、国際教育を推進していく。

【 低学年 】

- ・ 第1、2学年、1回45分（生活科の授業時数削減） 年間10時間
- ・ 主に学級担任と外国語指導助手（ALT）とのTT（ティーム・ティーチング）

【 中学年 】

- ・ 第3、4学年、週1回45分（外国語活動） 年間35時間
- ・ 主に学級担任と外国語指導助手（ALT）とのTT（ティーム・ティーチング）

【 高学年 】

- ・ 第5、6学年、週2回45分（外国語科） 年間70時間
- ・ 主に学級担任と外国語指導助手（ALT）とのTT（ティーム・ティーチング）

2 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

古河市では、「教育に関する大綱」を策定し、グローバル社会をリードする人材の育成、さらには、国際化、情報化に対応できる力を育成することを目指している。

その一環として、小学校、中学校9年間の切れ目のない外国語教育の充実のために、小学1年生からの英語活動を実施し、外国語教育の推進を図っていく。

3 令和4年度 古河市立名崎小学校の方向性

市の方針を受け、本校においては外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点的に取り組む。英語を用いて相手のことを理解したり、自分のことを伝えようとしたりする活動を通して、本校学校教育目標「郷土に誇りをもち、たくましく生きぬく子を育てる」を目指していく。